

附属機関等の会議結果の公開 様式

会議名	令和5年度第3回愛荘町立図書館協議会 会議結果(概要)
開催日時	令和5年(2024年)3月6日(水) 19時30分～21時30分
開催場所	愛知川図書館
出席者	西澤基治会長、大辻登代子委員、辰巳和美委員、辻野ミト子委員、野村仁美委員、西村知子委員、平野宏文委員
事務局	教育長 徳田寿、図書館長 三浦寛二、図書館課長補佐 小豆畑靖、図書館司書 水谷英紀、主任 宇野玄将
傍聴者	1人
議題	(1) 今年度上半期 行事の報告、図書館利用状況について (2) 子ども読書活動推進計画の進捗状況について (3) その他
審議内容	<p>(教育長挨拶) (出席職員の紹介)</p> <p>(事務局) それでは、会長に議事進行をお願いします。</p> <p>(会長) それでは議案1、令和5年度上半期の行事報告と図書館の利用状況について事務局よりお願いします。</p> <p>(事務局) 行事報告について、愛知川図書館では12月にあそぶっくクラブさんが「絵本づくり」をされたほか、特別おはなし会の「おはなしレストラン」、図書館員の企画で「図書館マスタービンゴ」を開催しました。1月もあそぶっくクラブさんが「おたのしみ袋」作りをされ、好評いただきました。2月には健康推進課と共催で「がん健康講座」を開催し50人もの参加をいただきました。3月は「超入門はじめてのChatGPT活用講座」を行いこちらも盛況でした。</p> <p>秦荘図書館では2月に「わたしのまちの自費出版」と題して自費出版の企画展を行いました。サンライズ出版と合同企画で、書店と図書館の連携の一環で協力して出版文化を盛り上げるという趣旨で開催しました。3月には「野菜づくり講習会」を秦荘でも開催する予定をしております。</p> <p>びんてまりの館については、2月に「愛知中学校卒業展」を開催しました。担当教員や美術部だけでなく、ソフトボール部や3年生の担任、コミュニティスクールの方も一緒に展示作業をされました。図書館も図書の展示をしました。3月9日から企画展「昔ここに戦争がありました～木津龍尊さんの遺したもの～」を開催します。講演も行いますので、ご来場いただければと思います。</p>

利用状況については、愛知川は約5千冊、秦荘は約3千冊増と両館とも前年度に比べて貸出冊数が増えています。あそぶっくクラブや、ほんてつのような図書館ボランティア団体に様々な活動をしていただいているほか、ジャズボランティア団体によるコンサートを毎月開催していただき、大変好評で定例化してきています。ボランティア団体の活動が年間行事の一部として定例化し、図書館全体で良い方向に動き始めているように感じています。

(会長)

今の報告について質問等があればどうぞ。

(質問等なし)

では、議案2 子ども読書活動推進計画の進捗状況について事務局よりお願いします

(事務局)

先の協議会で審議いただいていた「愛荘町まちじゅう読書の計画（第3次）」について原案通り教育委員会で議決され、4月から実施させていただきます。先の12月議会では「愛荘町妊婦とお腹の赤ちゃん・子育て応援宣言」が議決され、「愛荘16年教育」をもとに胎児期からの子育て支援をする議決がされました。以前から図書館では、健康推進課や子ども支援課等と連携し、妊婦さん向けに図書館利用や読書のPRをしている他、ブックスタート事業や学校図書館への図書指導員の配置など総合的な支援をしているところですので、引き続き取り組んでいきます。取組等については来年度も随時報告いたします。

(会長)

今の報告について質問等があればどうぞ。

能登半島地震に伴う職員派遣について報告をしていただけるとのことですのでお願いします。

(事務局)

能登半島地震に伴う職員派遣で当館職員が先週まで支援に行っていましたので、報告をしていただきます。それを踏まえてもし愛荘町で災害が起こった際、図書館として何ができるかをお話しできればと思います。

(事務局)

(派遣先での業務や現地の状況について報告)

(委員)

今回の能登半島地震のような災害が愛荘町で起こった時に図書館は何

ができるのでしょうか。

(事務局)

町職員として、まずは町民の皆さんの命を守る行動が優先されます。東日本大震災の際の話の話を聞くと命を守る行動から生活を守る行動というように移行するようです。図書館は教育委員会部局であるため、それらと同時に子どもたちの学習の保障や学校の運営も担う必要があります。避難所では新聞がありがたがられたとの報告がありましたが、図書館としては避難先で紙の本の提供や活用の面で知見を活かせるのではないかと考えます。また、もし災害が開館時間内に起こったらどう利用者の安全を確保するか、ということは常々考えるところです。最優先は町民の生命の安全確保、生活の再建だと思います。

(教育長)

東日本大震災の際の話として、オーケストラがミニコンサートをされた話を聞いたことがあります。食料の確保ができるようになって、生活がある程度再建できる道筋が立った時、生きていく楽しみの一つとして音楽や読書や読み聞かせのようなソフト面の役割は大事だと思います。本が手元に届けられ、それをきっかけに人と人との繋がり結び直しなどができたら良いのではないのでしょうか。災害時の対応について、改めて考えるきっかけになりました。

(委員)

本の話に戻りますが、2点思いを伝えます。

以前、別の会議に出席した際、学力テストの結果をもとに議論しました。愛荘町の結果を見て「必ず読書をする」という子どもが少ないというもので、ショックをうけました。本が好きな子はたくさん読みますが、読まない子や本に興味がない子どもやその保護者も多いように思います。例えば、中学校の親子活動として親子で図書館利用をするような活動があっても良いのではないのでしょうか。本に触れるきっかけになりますし、活字を読む機会を増やす機会があると、興味のなかった子どもが活字に触れる機会を生めるのではないのでしょうか。

小学校に読み聞かせに行った際、朝の授業が始まる前に図書室にたくさん子どもが来ていて、本を借りていました。クラスでの読み聞かせが終わってから図書指導員と話すと、文字の少ない本はよく借りる、高学年でも字がたくさんの本は苦手で挿絵ばかり見ているということをおっしゃっていました。

読み聞かせボランティアをしていると本に興味があっても、絵本は絵を見て楽しめますが、そこから文字から想像して楽しむところへのステップアップに大きな壁があるように感じました。読み聞かせボランティアは子

ども達と本の楽しさが共有でき、楽しくて好きです。そこで、子ども同士で読み聞かせをする機会があるといいのではと思います。読む相手を考えて本を選び、自身も本に出会う機会が増えるのではないかということを考えていました。

(事務局)

中学生の図書館利用は全国的にも伸び悩んでいて課題の一つだと考えています。学校生活が極端に忙しくなり本に触れる時間がないのだらうと思いますが、その状況でも図書館としてできることを考え、読書や図書館を利用する機会を増やす働きかけをしていきたいです。子ども同士で読み聞かせをすることについては、愛知中学校の家庭科の先生が生徒に絵本を選ばせて、幼稚園に行つて園児に読み聞かせする授業をされています。コロナ禍で中止されていましたが、今年度から再開されました。ほかには中学校の特別支援学級の生徒が先生と一緒に授業中に利用することもあります。

(委員)

PTAへ働きかけるのはどうでしょうか。保護者に働きかけると効果があるかもしれませんが、親子で図書館を利用してほしいと思います。

(委員)

今の子どもたちは、ネット小説は読んでいるのでしょうか。

(事務局)

確かに十数年前に流行したように記憶していますが、今の電子図書は漫画に移ったのではないかと思います。電子図書を読むのは中高年の方が多いように思います。

図書指導員に図書室に入ってもらってから、学習漫画から小説を借りる児童が増えた実感があります。確実に文字を読む子が増えていると思いますし、今まで図書室が使えず本を読めなかった児童をはじめ、うまくステップアップした児童が増えたと思います。図書館としてサポートしていきけるように取り組んでいきたいです。子どもが子どもに読み聞かせをするのは面白いアイデアだと思います。学校へ働きかけをしていきたいです。

(委員)

あそぶっくクラブで高学年の子が低学年の子に読み聞かせをすることがありましたが、大人が読むのとは違う様子で盛り上がりました。ただ、いきなりするのは厳しいと思います。大人がうまく巻き込めるか、輪を広げられるかにかかってくると思います。

(教育長)

読む習慣と学力は関連していると思います。学びのアンケートを見ると、家で計画を立てて勉強すると回答する子どもが中学生になると下がりますし、自宅で1時間以上勉強するという割合も同様に低下します。活字への抵抗感は学力の定着や学習の習慣形成にはハードルが高いという点で関係性があるように思います。本をのめり込んで読める子は活字への抵抗も減り、自力解決ができ、宿題がなくても自ら学べると考えます。これが目指すところですが、抜本的な改革が必要であると思っています。

(事務局)

読書は色々な楽しみ方がありますし、強制されるものでもないと考えます。ただ、生活の基礎ではあり、ぜひ取り組んでほしいと思っています。しかし、中高生への働きかけは難しいところです。愛荘町の子どもは働きかけると読んでくれると思ってはいますが、読書以外に面白いことが増える時期でもあり、それに取り組むのも成長なのだと思うところです。どうしても数値で出てしまいますが、色々な楽しみ方を身に付けて社会で生きていってくればよいと思っています。

(委員)

学年を超えて、様々な学年が混ざって学習をする機会はあるのでしょうか。学校に限らず、学童や子ども食堂で一緒に宿題をすることなど。

(委員)

学校でも学年が交流して何かをする機会はあるのでしょうか

(教育長)

愛知川小学校では「勉強教え隊」という取り組みを独自でされており、高学年の児童が低学年に教える取り組みがされています。もちろん、学童や子ども食堂でも一緒に勉強することはあると思います。

交流というと、学校行事では学年を超えて行うものもあります。

(委員)

縦のつながりを学習意欲の維持や時間確保のきっかけにできないでしょうか。

(教育長)

家庭の読書環境はそれぞれに異なっており、リビングではなく個室でいたりタブレットを使っていたりすると思います。また、新聞を取っていないかったり、家にほとんど本がないような家があったりするかもしれません。

学力調査は年度はじめにおこない、学びのアンケートは年度末に行っていますが、愛荘町では年度はじめは結果が良くない傾向があります。その年度のさまざまな指導等の関わりの中で数値が上がるのだと思いますが、年度はじめがベースだと一人で学習ができていないのではないかと思います。様々な分析が必要です。

(委員)

ブックスタートや学校などで読み聞かせをしています。乳児期から学校まで読み聞かせ等で本に触れる機会が段階を踏んで続いていること、その場所があるというのは凄いことだと思います。学校に読み聞かせに行った際に、読んでいる自分が気づかないことに気づいてくれ、目で見て耳で聞いてくれていることが感じられて嬉しかったです。

(事務局)

教育を数値で評価するのは難しく、いつも悩みながら対応しています。愛荘町の読書の取り組みは評価されるべきだと常々思います。外部に向けてのPRも含めて、より力を入れていきたいです。また「まちじゅう読書の宣言」や「愛荘16年教育」など、子どもを育てる環境は他の市町に比べても引けを取らないものがあると思っています。そのようなことも踏まえて取り組んでいきたいです。

(委員)

愛荘町ではブックスタートで絵本を2冊渡していますが、他の市町の状況はどうでしょうか。

(事務局)

市町によって異なります。

(委員)

ブックスタートやフォローアップの機会に1冊ずつ、計2冊を渡していますが、4か月や1歳で、読書がどういったものなのかわかるのでしょうか。膝に乗せて、一対一で親が読むことを教える機会にはなっていますが、しっかりした狙いと意図を持って本を渡さないと、ただやっているだけでは意味がないと思います。兄弟がいる子も同じ本で良いのでしょうか。同じ本を何冊も要らないといわれたこともあります。その子の本であって兄弟の本とは違うと説明はしますが、良い本であると信念を持って言えるようにしないとイケないのではないのでしょうか。

(事務局)

ブックスタート事業のねらいとして絵本を通じた親子の時間を持って

ほしいという想いで、本をプレゼントしています。たしかに兄弟さんにすでにお渡ししていたり、家でお持ちだったりすることはありますが、その子の本として、例えば外出用にしてもらうなどの案内をしています。絵本があると子どもとの接し方に悩んだときに一つのコミュニケーションになります。中学校へ行った際も、生徒たちが幼い時に読んだ絵本を読むと、懐かしんでくれることもありました。

(会長)

ありがとうございます。そろそろ時間も過ぎましたので次回の予定をお願いします。

(事務局)

次回の開催日は5月29日、19時30分より秦荘図書館で開催予定です。

(会長)

本日はありがとうございました。

問い合わせ先

愛知川図書館

連絡先 0749-42-4114